「こおりやまの米」通信

令和６年９月

編集：郡山市
JA福島さくら郡山統括センター（TEL. 024-921-0503）
NOSAI福島中央支所（TEL. 024-933-3307）
県中農林事務所農業振興普及部（TEL. 024-935-1310）
発行：郡山市農作物生産対策協議会
（郡山市園芸畜産振興課 TEL. 024-924-3761）

毎月８日は『こおりやま「お米の日」』
豊かな自然と気候に恵まれた、県内一の米どころである郡山の美味しいお米を食べましょう！

Vol.7　適期刈り取り特集

こおりやまの米通信　検索

＊最新および過去の記事は、郡山市ウェブサイトから見ることができます

1　生育状況

平年よりも高温で経過したことから、平年より５日程度早い出穂となりました。また、出穂後も高温で経過しており、登熟が早まることが予想されるので、収穫作業が遅れないように農機具の点検等の準備を進めてください。

なお、調査ほ場の９月３日における生育状況は、郡山市のホームページに掲載されますので、参考にしてください。

（表） 出穂後の積算気温による刈り取り始めから刈り取り終期の目安

地域	主な品種の出穂期		出穂から8月27日までの積算気温（℃）	各積算気温の到達予想日			
				950℃	1000℃	1050℃	1200℃
				刈り取り始めの目安			刈り取り終期の目安
平坦部	７月28日	ひとめぼれ	804	9月3日	ー	ー	9月14日
	８月１日	天のつぶ	695	ー	9月10日	ー	9月19日
	８月５日	コシヒカリ	585	ー	9月15日	9月17日	9月25日
湖南	７月28日	あきたこまち	751	9月6日	ー	ー	9月18日
	８月１日	里山のつぶ	654	9月10日	ー	ー	9月24日

※「各積算気温の到達予想日」は、8月20日までの実測値、それ以降は平年値で算出。
なお、平坦部はアメダス郡山、湖南はアメダス猪苗代のデータで算出。
※　上記の到達予想日は目安です。必ずほ場を確認し適期収穫に努めてください。

2　適期刈り取り

【刈り取り時期が早いと・・・】
- 作業能率が悪い
- 未熟粒、死米が多くなる
- 燃料使用量が増加する

【刈り取り時期が遅いと・・・】
- 胴割米、着色米が増加する
- 光沢がなくなり品質が低下する

（１）出穂後の積算気温による方法

出穂期からの日平均気温を積算し、刈り取り適期を推定できます。

高温条件下では積算気温による予想より籾の黄化が早まるので、籾や枝梗の黄化状況で判断してください。

（２）穂の黄化状況から見た適期

ほ場全体を見渡して平均的な株の穂の黄化程度を観察し、籾の80～90％が黄化し、穂軸の半分程度が黄化した時期が刈り取り始期です。また、刈り取り晩限は胴割米や着色米等の混入を防ぐため、積算気温1200℃を目安とします。今年は、今後も気温が高い予報となっています。気温が高い条件での刈り遅れは、胴割米等の増加につながりますので、積算気温1200℃到達前に収穫を終わらせるように注意してください。

刈り取り面積が多い方は、刈り取り適期になったら速やかに収穫を始め、適期内での収穫完了に努めてください。ほ場による地力の違い等から黄化程度が違うので、収穫間際になったらほ場ごとに確認してください。

飼料用米の検査では、胴割米や着色米の基準がないので、できるだけ刈り取りを遅らせると（立毛乾燥）、乾燥用の燃料使用量を削減することができます。

※ほ場内での生育ムラにより倒伏した箇所や熟期の遅い箇所を一度に収穫・調製すると、収穫物全体の品質を落とすことになります。状況に応じて刈り分けてください。

3 収穫と乾燥・調製のポイント

（１）刈り取り時の水分

コンバイン収穫では、籾水分25%以下が収獲の目安です。葉に朝露が残っていたり籾水分が高いと脱穀部の網目が詰まり、収穫ロスや損傷粒の増加や、機械の故障の原因となります。稲体の乾いたほ場から収穫作業してください。

また、あらかじめ畦畔の除草を行い、水分の高い畦畔草を巻き込まないように気をつけてください。

（２）刈り取りの作業速度

作業速度が速すぎると機械の処理能力が追い付かず、詰まりや選別ロスが多くなります。また、こぎ胴の回転数も同様に高すぎると脱ぷ粒が増加し、品質低下の原因となります。

作業前に今一度コンバインの取り扱い説明書を確認し、適切な作業速度、回転数を確認してください。

（３）乾燥調製準備

乾燥機、籾摺り機等は使用前に良く掃除し、異品種や異物の混入が無いよう注意してください。

（４）収穫物の取扱

コンバイン収穫後の生籾を放置すると、品質低下の原因となります。収穫した生籾は3時間以内を目安に乾燥機に張り込み、乾燥までは通風状態としてください。

（５）乾燥作業

高水分の籾が含まれる場合は、乾燥の途中で火を消しテンパリングを行うことで、乾燥ムラを防ぐことができます。また、乾燥速度が速いと胴割れが発生しやすいため、乾燥速度は、毎時0.8%以下としてください。

仕上げ水分は15．0%を守ってください。最終的な確認は、乾燥機の表示に頼らず、専用の水分計で計測してください。なお、所有する水分計は、事前にJA等の米集荷業者の物と比べ精度確認を行ってください。

また、備蓄米は水分の基準が厳しいため、特に水分の戻りに注意した仕上げとしてください。

（６）籾摺りから選別まで

籾摺りは穀温が高いと肌ズレしやすいので、十分に放温してから開始するようにしてください。

選別は、網目1．85mm以上を用い、機械の能力に合った流量を守ってください。流量を多くしすぎるとくず米が混入し、整粒歩合が低下します。

計量器はあらかじめ点検し、決められた重量で袋詰めしてから出荷してください。

【秋の農作業安全確認運動】
重点推進期間中（9月1日～10月31日）
徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策

①作業前の機械点検・整備および周辺環境の確認
②トラクター運転時はシートベルトを必ず着用
③機械の点検・清掃時等はエンジンを止めて作業
④コンバインでの収穫時、わら・籾の詰まりが発生した際は、必ずエンジンを止めてから対処
⑤コンバインの運搬車への積み下ろしは慎重に

ガス湧き予防対策に秋耕を

近年、田植後のガス湧きによる生育不良が問題になっています。ガスの発生がひどかったほ場では、予防策として収穫後すみやかに稲わらのすきこみをしてください。すきこみが遅れるほど地温の低下により分解が遅れます。

また、表面付近は地温が高く分解が活発となるので、すきこみは浅めに行ってください。その際に稲わら腐熟促進剤(ワラ分解キング等)を使用すると、稲わらの分解が促進されます。

農薬のボトル等の適正処理のお願い

農薬のボトル等の農業用使用済プラスチック類は「産業廃棄物」となるため、ごみ集積場やクリーンセンターへの搬入はできません。

ＪＡ福島さくらでは11月に回収処理を代行しておりますので、詳しくはお近くのＪＡ支店へお問い合わせください。

令和６年産米のモニタリング検査について

令和６年産米は郡山市内で３点のモニタリング検査を実施します。昨年度までと異なり、旧市町村ごとではなく、市内全域での出荷制限解除となりますので、モニタリングが終了するまで販売を行わないでください。なお、ＪＡや米集荷業者への出荷はモニタリング検査終了前でも可能です。

モニタリングの実施状況は福島県水田畑作課のホームページで確認することができます。

水田畑作課のHP⇒

土やゴミ等の異物混入による基準値超過を防ぐため、米の調製作業時は、作業場や乾燥・調製機械の清掃等、異物混入防止策の徹底をお願いいたします。

野焼きは原則禁止です！ 稲わらは、野焼きせずに、すき込みし、土づくりにご活用ください。

道路に泥を落とさないよう注意を！ 農作業の後、公道に出る際には機械についた泥などを落としてから走行願います。